

序 文

本報告書は、2013年11月13日から15日まで、ベトナムの首都ハノイにおいて、国際日本文化研究センターとベトナム社会科学院・東北アジア研究所によって共催された国際シンポジウム「日越交流における歴史、社会、文化の諸課題」の記録である。

日本とベトナムの間では、16世紀初頭から交易が始まり、一時ホイアン（会安）に日本人町が形成されるほど、深い交流関係が続けられていた。また19世紀以降、ともに西洋の衝撃を受け、それぞれの近代への道を歩み出しながらも、つねにその受容をめぐる直接的・間接的に影響し合ってきた。そしてこの間、同じ東アジア文化圏に属する国として、多くの社会的・文化的変動を共有する形で、中国や西洋という他者を相手に、時には共通する、時には相反する対応姿勢も見せ続けてきた。

一昨年、ちょうど日越国交樹立40周年を迎える節目の年に、国際日本文化研究センターとベトナム社会科学院・東北アジア研究所双方の学者が一堂に集まり、この両国の長き交流における歴史・社会・文化などの諸課題について、ともにそれを議論し合うことがきわめて重要かつ有意義であり、それは今後の日越関係の構築のみならず、東アジア域内の多角的な国際関係の模索にも大いに資するとの認識に基づき、本国際シンポジウムを企画・共催した。

シンポジウムでは、「日越交流における歴史、社会、文化の諸課題」という総合テーマのもとで、①「歴史：古代、中世、近世の歴史および歴史の中の日越交流」、②「社会：近代東アジアにおける各国の社会変化」、③「文化：若者のポップカルチャー、アニメ、庭園、茶道等——日越文化の比較」、④「その他の日本研究」（本報告書ではそれぞれ「第1部 歴史——古代・中世の歴史、近世日本人町、歴史交流」「第2部 社会——近世以降の東アジアの社会変化の比較」「第3部 文化——若者のポップカルチャー、アニメ、庭園、飲食文化」「第4部 他領域の日本研究」に改めた）に分けられた四つのセッションにおいて、延べ二十数名にのぼる双方の研究者が発表し、またコメンテーターを交えながら、セッションごとに全員による総合討論を行った。

きわめて多岐にわたる一連の研究報告とそれをめぐる質疑応答を通して、古代から近代、そして今日に至るまでの両国の深い交流関係をあらためて確認したのみならず、また歴史的に中国や西洋という他者を相手に両国が見せてきた対応の異同や影響関係等もある程度明らかにすることができたのではないかと自負する。むしろ、それがはたして正しい認識であるかどうかはやはり本報告書を手にする読者のご判断に任せるしかない。

本シンポジウムの開催にあたり、ベトナム社会科学院・東北アジア研究所から多

大なご協力を頂いた。ここで東北アジア研究所所長 TRAN Quang Minh 先生、日越社会科学学術交流促進センター長 HO Hoang Hoa 先生をはじめとする諸先生方にあらためて感謝の意を表したい。また三日間の会議においてご報告ないしコメントして頂いた二十数名の先生方にも厚く御礼を申し上げたい。諸先生方から提示された数々の知見は、今後かならず両国関係をめぐる学術的探求のさらなる深化に寄与していただろうと確信する。

国際日本文化研究センター教授

劉 建輝